

令和3年度

福島再生・未来志向シンポジウム

～福島の復興と脱炭素社会の実現に向かって～

環境省は、平成30年8月より「福島再生・未来志向プロジェクト」をスタートさせ、福島復興に向けた取組を展開してきました。また、令和2年10月、「2050年カーボンニュートラル宣言」により、その実現に向けて環境省は脱炭素の取組を展開しています。

そこで、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けた福島県において、脱炭素と復興まちづくりを両立する取組を考える機会として、シンポジウムでは有識者や取組の実践者に講演いただくとともに、取組の現状についてご紹介するため、シンポジウムを開催いたします。

ご来場・ご視聴いただき、ありがとうございます。

<Zoom ウェビナー及び YouTube でご参加の皆さまへの注意事項>

- ・ Zoom ウェビナーでご参加の場合、シンポジウム中のご質問は「Q&A」機能で受け付けています。お時間の都合上、ご質問にお答えできない場合がございますので、ご了承ください。
- ・ 議事録作成のため、録音しています。
- ・ 当日の映像は、録画・撮影はご遠慮ください。
- ・ 会場には冒頭の「FUKUSHIMA NEXT 表彰式」受賞者の方々などがいらっしゃいます。

<ご来場の皆さまに新型コロナウイルス感染症予防対策のご協力をお願い>

- ・ 会場内ならびに施設内では、マスクを着用ください。
- ・ お手洗い等により、会場に再入場される場合は、会場入口にて、手指のアルコール消毒にご協力ください。
- ・ 開催中に、発熱や咳が出るなど、体調の変化を感じられた場合は、マスクをご着用の上で、スタッフへお声がけください。

シンポジウムプログラムの概要

1 あいさつ

環境省 環境再生・資源循環局室石泰弘局長より開会のご挨拶を申し上げます

2 FUKUSHIMA NEXT 表彰式

環境省では、福島に対する風評払拭や環境先進地へのリブランディングにつなげるため、福島において未来に向けてチャレンジする姿を発信する、「FUKUSHIMA NEXT」の取り組みを進めており、これらの活動の公募を行いました。有識者による厳正な審査の結果、環境大臣賞3人（組）、福島県知事賞に3人（組）が選ばれ、本シンポジウムにて表彰状授与式を執り行います。今後、環境省では、これらの優良な取組を様々なメディアを通じて発信していきます。

3 基調講演、環境省職員とのトークセッション

基調講演「気候変動の最新の科学的知見をアクションへ」

講師：東京大学生産技術研究所 シニア協力員（前特任教授） 丸山 康樹

対談者：環境省 環境再生・資源循環局 福島再生・未来志向プロジェクト推進室

室長 布田 洋史

○IPCC AR6 の解説と具体的な地球温暖化対策に向けてのアクション例を紹介します。また、COP26に参加した環境省職員より COP26 の話しも交えながらトークを行います。

4 関連講演、環境省職員とのトークセッション

テーマ①「地域循環共生圏の実現において重要なサステナビリティ経営戦略と福島における可能性」

講師：多摩大学ルール形成戦略研究所 客員研究員

兼 EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 ディレクター 齊藤 三希子

対談者：環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室室長 近藤 崇史

○サステナブル経営の実現に向けて福島県での事例も交えながら解説します。また、金融から企業行動にアプローチしている環境省職員より、環境省の取組も交えながらトークを行います。

テーマ②「FREA の水素技術開発について」

講師：産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター 研究センター長 古谷 博秀

対談者：環境省 水・大気環境局 自動車環境対策課 自動車環境戦略企画官 河田 陽平

○水素を中心に FREA での研究取組についてご紹介いただきます。また、運輸部門等の脱炭素化に向けた再エネ等由来の水素の活用を促進している環境省職員より、環境省の取組も交えながらトークを行います。

テーマ③「脱炭素まちづくりを目指したバイオマスのエネルギー変換技術システムの開発」

講師：国立環境研究所 資源循環領域副領域長 倉持 秀敏

対談者：環境省 環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室 参事官補佐 植竹 朋子

○環境研究総合推進費にて行われているバイオマスのエネルギー変換技術システム開発についてご紹介をいただきます。また、福島県にて森林の利活用促進を行っている環境省職員より、環境省の取組も交えながらトークを行います。

5 話題提供

福島県 環境共生課 主幹 福原武正

大熊町役場 大熊町役場 ゼロカーボン推進課 課長補佐 館村 宥紀

環境省 環境再生・資源循環局 福島再生・未来志向プロジェクト推進室室長 布田 洋史

○福島県と大熊町及び環境省より、それぞれ取組を紹介いたします。

6 パネルディスカッション「福島の復興と脱炭素社会を実現した未来について」

モデレーター：国立環境研究所社会システム領域領域長 亀山 康子

パネリスト：ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子

株式会社エイブル再生可能エネルギー部 部長

兼 大熊るるるん電力株式会社 代表取締役副社長 渡邊 亜希子

丸山 康樹

齊藤 三希子

古谷 博秀

○福島の復興と脱炭素社会を実現した未来について、研究者、ジャーナリスト、コンサルタント、脱炭素社会実現に取り組む企業の方（FUKUSHIMA NEXT を脱炭素関係で環境大臣賞受賞者）といった様々な立場の6名より議論をいただきます。

令和3年度 福島再生・未来志向シンポジウム
～福島の復興と脱炭素社会の実現に向かって～

次 第

13:00 1. あいさつ

環境省からのあいさつ

▷環境省 環境再生・資源循環局 局長 室石 泰弘

13:05 2. FUKUSHIMA NEXT 表彰式

① 表彰：環境大臣賞、福島県知事賞、特別賞、奨励賞

▷プレゼンター：環境省 環境再生・資源循環局 局長 室石 泰弘

福島県 生活環境部 部長 渡辺 仁

② 講評：

▷講評者：崎田裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）

13:35 3. 基調講演：環境省職員とのトークセッション

「気候変動の最新の科学的知見をアクションへ」

▷講 師：東京大学生産技術研究所 シニア協力員（前特任教授） 丸山 康樹

▷対談者：環境省 環境再生・資源循環局 福島再生・未来志向プロジェクト推進室室長 布田 洋史

13:55 4. 関連講演：環境省職員とのトークセッション

① 「地域循環共生圏の実現において重要なサステナビリティ経営戦略と福島における可能性」

▷講 師：多摩大学ルール形成戦略研究所 客員研究員

兼 EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 ディレクター 齊藤 三希子

▷対談者：環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室室長 近藤崇史

② 「FREAの水素技術開発について」

▷講 師：産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター 研究センター長 古谷 博秀

▷対談者：環境省 水・大気環境局 自動車環境対策課 自動車環境戦略企画官 河田 陽平

③ 「脱炭素まちづくりを目指したバイオマスのエネルギー変換技術システムの開発」

▷講 師：国立環境研究所 資源循環領域副領域長 倉持 秀敏

▷対談者：環境省 環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室 参事官補佐 植竹 朋子

<休 憩>

15:00 5. パネルディスカッション

① 話題提供：

▷福島県の取組紹介 環境共生課 主幹 福原武正

▷大熊町の取組紹介 大熊町役場 大熊町役場 ゼロカーボン推進課 課長補佐 館村 宥紀

▷環境省の取組紹介 環境再生・資源循環局 福島再生・未来志向プロジェクト推進室室長 布田 洋史

② パネルディスカッション「福島の復興と脱炭素社会を実現した未来について」

モデレータ：亀山 康子（国立環境研究所国立環境研究所社会システム領域領域長）

パネリスト：崎田 裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）

渡邊 亜希子（株式会社エイブル再生可能エネルギー部部長兼

大熊るるん電力株式会社代表取締役副社長）

丸山 康樹（東京大学生産技術研究所シニア協力員（前特任教授））

齊藤 三希子（EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社ディレクター）

古谷 博秀（産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター研究センター長）

16:25 6. 閉会

閉会挨拶

▷福島県 生活環境部 部長 渡辺 仁

（敬称略）

登壇者プロフィール



丸山 康樹（まるやま こうき）

東京大学生産技術研究所 シニア協力員（前特任教授）

1986年、東京大学大学院工学系研究科、博士取得。電力中央研究所にて、米国研究所との共同研究により、地球シミュレータを用いた地球温暖化予測等を実施。「地球温暖化の予測・対策総括リーダー」、主席研究員など。2009年より東京大学生産技術研究所・エネルギー工学連携センターの客員教授、2011年から特任教授として、全国16社と海洋エネルギー共同研究により、久慈波力発電所、平塚波力発電所の開発、環境省の浪江波力発電所FS事業に従事。2021年より現職。日本大学 海洋建築工学科 客員教授。波力発電の国内内外特許。気象庁長官賞ほか受賞。



齊藤 三希子（さいとう みきこ）

多摩大学ルール形成戦略研究所 客員研究員
兼 EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 ディレクター

大学院で環境経済学を学び、国内 Sier、日系シンクタンクを経て現職。地域資源を活用した持続可能な地域モデルの創出や、先進的な「農業×エネルギー」「食農×医療・福祉」「AgriFoodTech」「サーキュラーエコノミー」「バイオエコノミー」などのビジネス策定に取り組む。『Newspicks』にて「環境・エネルギー、食・農業」分野のプロピッカーとして活動中。「カーボンZERO 気候変動経営」（日経新聞出版、2021年）や「代替タンパク質の現状と社会実装へ向けた取り組み」（情報機構、2021年）ほか、講演・著書・執筆多数。



古谷 博秀（ふるたに ひろひで）

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
エネルギー・環境領域 再生可能エネルギー研究センター
研究センター長

1992年筑波大学大学院工学研究科博士課程修了。1992年通商産業省（当時）に入庁後、1999年国立研究開発法人産業技術総合研究所の前身である工業技術院に入所。工業技術院時代からWE-NETプロジェクトの一員として水素利用技術の研究開発に従事、水素燃焼タービン、水素ディーゼルエンジン等の技術開発に携わると同時に、NSS 推進本部の一員として、水素技術開発全般に関与。その後もレーザ着火などエンジンの燃焼技術の研究開発を続けると共に、省エネルギー技術についてもNEDO プロジェクトリーダーを経験、国の省エネルギーロードマップ策定委員等を歴任。現在、産総研福島再生可能エネルギー研究所 再生可能エネルギー研究センター研究センター長として水素キャリアを含む再生可能エネルギー技術の研究開発全般に従事。



倉持 秀敏 (くらもち ひでとし)

国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環領域 副領域長

1997年東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻博士課程修了。2001年国立環境研究所に研究員として入所。2021年4月より現職。東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻及び横浜国立大学大学院環境情報研究院自然環境と情報部門の客員教授も兼任。環境放射能除染学会誌編集委員長。専門分野はリサイクル技術、物性と相平衡。近年は、バイオ燃料製造技術及び廃棄物の熱処理技術の開発と、環境汚染物質の挙動の解明に関する研究に従事。環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会学術賞ほか、受賞。



亀山 康子 (かめやま やすこ)

国立研究開発法人国立環境研究所 社会システム領域 領域長

1992年環境庁国立環境研究所(当時)に研究員として入所。2021年4月より現職。専門分野は国際関係論。気候変動に関する国際協調を研究テーマとしてきた。京都議定書交渉時(1996-97年)は政府代表団の一員として交渉に参加した。主な著書に“Climate Change Policy in Japan: From the 1980s to 2015”(Routledge, 2017年)や『気候変動と国際協調—京都議定書と多国間協調の行方』(高村ゆかり氏と共編, 慈学社, 2011年)がある。



崎田 裕子 (さきた ゆうこ)

ジャーナリスト・環境カウンセラー

1974年立教大学社会部卒業。出版社で雑誌編集の後、フリージャーナリストに。くらしや地域の視点で環境・エネルギー、特に「持続可能な社会づくり」に取り組み、環境省登録環境カウンセラーとして、環境学習やまちづくりにも関わる。NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット前理事長、早稲田大学招聘研究員。環境省「中央環境審議会」、経済産業省「総合資源エネルギー調査会」「水素・燃料電池戦略協議会」、福島県「環境審議会」委員



渡邊 亜希子 (わたなべ あきこ)

株式会社エイブル 再生可能エネルギー部 部長
兼 大熊るるん電力株式会社 代表取締役副社長

脱炭素に関する取組が評価され「FUKUSHIMA NEXT 環境大臣賞」を受賞

1998年九州大学を卒業後、東京の企業で外食チェーンのIPOを手掛ける。その後、福島県にインターン、直後に東日本大震災を経験する事で、エネルギーに関心を持ち地域新電力会社の立上を実施。

その経験を生かし、令和2年12月に入社した株式会社エイブルでの業務を機に大熊町と大きく関わり、今回の大熊るるん電力株式会社の立上を責任者として実施。今後も代表取締役副社長として電力会社の経営を遂行する一方、株式会社エイブルの再生可能エネルギー部の部長として大熊町以外のゼロカーボンへの取組支援にも精力的に取り組んでいる。

< 配付資料一覧 >

配付資料 1 次第、登壇者プロフィール、配布資料一覧（本紙）

配付資料 2 講演等における説明資料

< お願い >

本日のシンポジウムに参加いただいた感想等について、以下のQRコードを読み取り、アンケートにご回答ください。回答期限は、12月5日（日）となっております。ご協力よろしくお願いいたします。



<アンケートサイトのURL> <https://forms.office.com/r/5npA08MiZ4>